



ターン

大阪府↔尾道

永井英夫さん

瀬戸田町出身。大阪府で旅行会社の添乗員として勤務しながら、地元が盛り上がりたて欲しいとの思いで実家の柑橘畑も並行して手伝うように。しばらく大阪と瀬戸田を行き来していたものの、2018年12月からは瀬戸田での生活一本に。



じゃあ帰ろうって
思いました。



永井さんの仕事場は多々羅大橋の麓にある「レモン谷」。レモン栽培に適した南向きの斜面地で、ふとした時に海を見下ろして「絶景だな」とよく思うそう。

今も昔も、やっていることはあまり変わらず、楽しいのが一番という気持ちが大きいです。これから、自分のようにUターンや移住などでもっと人が増えて、島が魅力的になればいいと思っています。

18歳で地元を離れてから12年間は関西で暮らし、戻ってくる前は旅行会社に勤めていました。お客さんに楽しんでもらえる添乗員もやりがいがありました。それ以上に瀬戸田のことが心から離れず、故郷への気持ち募って、Uターンを決めました。帰ってからは実家の柑橘畑を手伝ったり、消防団に入り地域のひとたちと関わったりしながら暮らしていますが、自分の原点にあるのは瀬戸田が盛り上がりたて欲しいということ。現在は、自分が子どもの頃に楽しんだ、今は無くなってしまった秋祭りの前夜祭を復活させようと奮闘しています。今の子どもたちがこれから先、島を出て行くことがあっても、自分たちと同じような気持ちを感じてくれていれば嬉しいなと思います。

自分の原点は「瀬戸田が好き」だと再認識

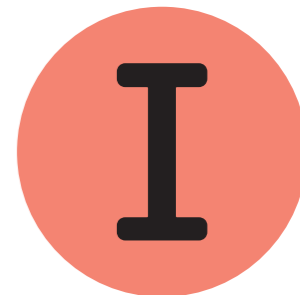
先輩農家さんに聞きました

英夫は自分より5歳下ですが、同じ地区に住んでいたの小さい頃からずっと知っています。車・バイクが好きという共通の趣味もあり、今も小学生のときと同じような関係で、違うのは趣味にかける金額のスケールがちょっと大きくなったくらいです。

僕らの会議室は、島ならではの海辺。年の近い仲間ってというのは貴重な存在で、特に用がなくても集まって、これから瀬戸田のレモンがどうやったらもっと知られるかということから、男同士のくだらないことまで、色々な話をしています。時間を忘れて楽しいことをする仲間です。



尾道の雰囲気がかく好きです。



ターン

福井県→尾道

寺山洋平さん

大阪府堺市出身。大阪や眼鏡の聖地、福井県鯖江市で修業を積んだ後、家族で尾道市へ移住。現在は、本通り商店街で「寺山眼鏡店」を営む。2児の父。

尾道で店をやっていることを友達にうらやましがられます

妻の実家が世羅町で、10年くらい前に帰省の道中に尾道に初めて来ました。そのときに、お店をやるとしたらこんな町がいいと妻と話をしたのを覚えています。それから福井県で働きつつ、尾道での開店準備をしていました。

オープン前の2年間は眼鏡店で働きながら、尾道の商店街界隈をリサーチしました。その頃は、地元の人が多くのお客さんで、ゆるゆると印象で、当初は地元の人を相手に、ゆったりと商売をしようと思っていました。しかし、オープンしてみたら、観光客の多さにびっくりしました。今ではお客さんの半分が市外の人で、「また尾道に遊びに来るからそれまでに作って」と言われて注文していく人が多く、驚いています。

尾道には、町並みや自然、風景など、まさに僕が住みたいなと思っていただけのものが全部あります。大阪時代の友達からも「尾道ってあか抜けてるよね。うらやましい」と言われています。尾道の雰囲気がかく好きで、ずっと家族と一緒に住みたいと思っています。



自身でデザイン・製造したものしか売らない、というスタイルの眼鏡店は、実は日本でも珍しいとのこと。

従業員さんに聞きました

寺山さんと出会ったのは、尾道市立大学に通っていた頃、おしゃれな雰囲気に惹かれて、ふらりとお店に立ち寄ったのが最初でした。僕は眼鏡掛けないんですけど……。

寺山眼鏡店は、ずっと地元に住んでいた自分の生活圏にはなかった新しい空気を持つ場所で、お邪魔しているうちにだんだんと親しくなり、今では従業員として働かせてもらっています。

寺山さんは、自分がやりたいことをやっている人。尾道に移り住んで、一からものづくりをしている姿に憧れています。

